

## 令和4年度の取組の方向性について

### 3つのテーマで重点取組

1 滋賀のあすを拓く人づくりの推進

2 コロナ後を見据えた滋賀県経済の成長促進化

3 滋賀ならではのツーリズム“シガリズム”の推進

### 重視する視点

- ① 多様な主体との連携
- ② 3年後を見据えて

# 1 滋賀のあすを拓く人づくりの推進

～生きがい・働きがいを感じながら滋賀の産業を担う人づくり～

・多様な主体との連携  
・3年間を描いて取り組む

現状

・本県の人口は、近年は横ばいで推移しているが、今後、人口減少や少子高齢化による生産年齢人口の減少が見込まれる。  
・新型コロナウイルス感染症の拡大前においては、景気の拡大等により有効求人倍率も高い水準で推移していたが、コロナ禍の長期化により、厳しい経済・雇用情勢が続いている。  
(県有効求人倍率(就業地別) 令和元年12月:1.63倍→令和2年12月:0.96倍→令和3年7月:1.21倍)  
・そのような不安を解消し、女性・若者・障害者・高齢者・外国人なども含め、誰もが生きがい・働きがいを持って活躍できる場を維持・確保していくとともに、テレワーク、副業・兼業といった多様な働き方を推進していく必要がある。  
・また、ICT、IoT、AI、ロボット技術など第4次産業革命への対応やCO<sub>2</sub>ネットゼロの推進による産業構造の変化など、将来に備えた対応も必要となっており、Society5.0時代における本県の成長を支える人材の育成・確保や企業の取組への支援が必要となっているところ。

課題

## ① 人生100年時代

・世代や性別、国籍等にかかわらず、誰もが活躍できる多様な働き方の実現  
・ライフステージに応じて、働くために自らが必要とすることを学ぶことができる社会の実現

## ② コロナ禍による影響

・雇用の二極化への対応(好調:製造業、情報通信業等⇔不調:宿泊・飲食等の対面型サービス業等)  
・非正規雇用労働者の雇用環境の改善(女性、若者、就職氷河期世代)  
・災害時等の危機対応力の強化(非接触・非対面、労働力確保)

## ③ 産業構造の変化

・技術革新や産業転換(DX、CO<sub>2</sub>ネットゼロ等)を見据えた人材の育成・確保  
(例)自動車、電子部品、情報通信

## ④ 人材・後継者・担い手不足

・生産年齢人口の減少に伴う人材の確保  
・製造業や観光業を支える人材の確保  
・中小企業の後継者の育成  
・伝統産業・地場産業の担い手の確保

現在の取組

・女性、若者、障害者、高齢者、外国人の就業支援	・離転職者等への職業訓練	・プロフェッショナル人材戦略拠点
・多様な働き方が可能な環境づくりに向けた普及・啓発 ・移住就業の支援	雇用シェアサポート(在籍型出向・副業支援) ・業界団体と連携した中小企業へのテレワーク等導入支援	・高等技術専門校のカリキュラム等の検討
		・大学連携による観光産業中核人材の育成 ・事業承継支援 ・地場産業担い手人材育成支援

課題は複合的に関連

## 多様な働き方を実現し、誰もが、学び、成長し、活躍する社会の構築

方向性

- ① 人生100年時代を見据え、ライフステージに応じた主体的なキャリア形成支援  
(高度人材の育成、女性活躍、学び直し・再教育、企業・労働者のニーズに応じた職業訓練、事業承継、担い手育成)
- ② 働き方改革の推進  
(労働者の希望に応じた多様な働き方の実現、ワーク・ライフ・バランスの推進、テレワークの定着、男性の育児休業促進等)
- ③ 多様な人材の確保と活躍促進  
(女性・障害者・高齢者・外国人等多様な人材の活躍促進、人手不足や後継者不足が深刻な分野の人材確保および活躍促進)
- ④ 産業構造の変化に対応した職業能力開発、労働移動の推進  
(デジタル・グリーン等の成長分野や建設業・介護等の人手不足分野の職業能力開発・労働移動、副業・兼業の促進)

## 2 コロナ後を見据えた滋賀県経済の成長促進化 ～滋賀県産業振興ビジョン2030の再起動～

- ・多様な主体との連携
- ・3年間を描いて取り組む

部  
組  
織  
目  
標

次の時代を  
見据えたひとづくり

滋賀の経済を牽引する産業の創出

しがCO<sub>2</sub>ネットゼロの推進

コロナ禍での  
事業者の支援

現  
状

- ・令和2年3月、滋賀県産業振興ビジョン2030（以下「ビジョン2030」という。）を策定。
- ・令和2年度、新型コロナウイルス感染症が拡大し、中小企業の事業継続を支援するとともに、次代を見据えた挑戦を支援してきたところ。
- ・改めて、2030年の目指す姿である、「新たなチャレンジ」が日本で一番行いやすい県、「社会的課題」をビジネスで解決し続ける県」、また、重視する4つの視点（①チャレンジする人・企業が集まる滋賀、②実証実験のフィールド滋賀、③ビジネスで実践する「健康しが」、④世界から選ばれる滋賀）に基づき、施策を再起動していく必要がある。

経  
済  
の  
変  
化  
情  
勢  
の  
社  
会

- ・新型コロナウイルス後の経済面では、既に中国は新型コロナウイルス前の水準に回復済みであり、米国も比較的早く回復する見込み。世界的に、新型コロナウイルスによる影響と回復には、宿泊・飲食業と製造業といった業種間で差異が存在。また、国・県・市町の対策により、影響を緩和しているものの、中小企業の債務残高は増大。
- ・新型コロナによる景気の悪化からの復興に対し、グリーンリカバリーの考え方の浸透や、デジタル技術の活用はより一層進展。

①次代を見据えた挑戦

②CO<sub>2</sub>ネットゼロ

③ D X

④中小企業の支援

再  
起  
動  
の  
視  
点

・コロナ禍にあっても、起業・創業、海外展開、製造業の技術開発、企業立地等、新たなチャレンジ・投資への意欲は高い。  
⇒こうした、次代を見据えた挑戦をいかに支えていくべきか。

・部内にCO<sub>2</sub>ネットゼロ推進に係るタスクフォースを設置。企業訪問を実施。  
⇒CO<sub>2</sub>ネットゼロの推進によるゲームチェンジに備え、産業振興の観点からどのような支援が可能か。

・令和3年度（仮称）滋賀県DX推進戦略を策定予定。産業のDXの推進が必要。  
⇒DXの浸透がもたらすビジネス環境の変化に備え、産業振興の観点からどのような支援が可能か。

・令和5年度（2023年度）で、中小企業活性化推進条例施行10年。これまでの取組の総括・検証を実施。  
⇒SDGsの推進を含め、中小企業の類型化ごとにかさね成長・活性化策を検討。

⑤産官学金労言士をはじめとする多様な主体との連携・共創、⑥ビジネス環境の変化への対応

### 3 滋賀ならではのツーリズム“シガリズム”の推進①

・多様な主体との連携  
・3年間を描いて取り組む



現状

- (1) 長期化するコロナ禍により観光関連産業は非常に厳しい状況にある。(R2年観光入込客数は3,641万人(約3割減))
- (2) 観光需要が大きく落ち込んだことを受け、観光事業者間の連携や新しい観光振興への期待が高まっている。
- (3) 出入国制限に伴い訪日外国人はゼロに近い状況となり、大規模な集客イベントや大型会議も中止となっている。
- (4) コロナ禍において「三密回避」、「少人数旅行」、「アウトドア、健康・ウェルネス」等が観光のキーワードとなり、本県の「適度な疎」、「自然でのアクティビティ」、「健康長寿」、「暮らし、食」といった「滋賀県の良さ」が改めて注目されている。
- (5) 人々の価値観の変化等により観光を取り巻く状況が大きく変化し、観光形態やビジネスモデル等の転換が迫られている。

各事業の課題

#### ① 国内旅行

**【全体】**  
 ・観光への安全安心が求められている。  
 ・近場旅行が増加し、地域の魅力を再発見・再評価することが求められている。  
 ・旅行ニーズの多様化が加速し、対応が必要となっている。  
**【教育旅行】**  
 ・本県の教育旅行の認知度が上がるとともに、本県ならではの体験学習やSDGsを学習できるプログラム等が求められている。  
**【コンベンション・大規模イベント】**  
 ・大型会議の中止によりオンライン会議が普及し、ハイブリッド会議等の新たな会議への対応が必要となっている。  
 ・東北デスティネーションキャンペーン等において地域における体験型観光が組み込まれ、一過性でない観光誘客が重視されている。

#### ② インバウンド

・コロナ後の訪日意欲は高く、ウイルス対策の徹底等の安全安心な環境整備が求められている。  
 ・訪日外国人に訴求力の高い歴史、文化、サイクル、トレイルといったコンテンツの魅力を高める必要がある。

#### ③ 物産振興

・販売機会の減少により厳しい状況となっている。  
 ・新たな販路開拓としてオンライン物産展の開催やオンライン販売の支援等が必要となっている。  
 ・物産事業者と観光事業者との連携強化が求められている。

#### ④ ビワイチ

・コロナ禍を踏まえた魅力発信やブランド力の向上が必要となっている。  
 ・琵琶湖岸から内陸部への誘客や家族連れや初心者、など誰もが楽しめるビワイチ・プラスを推進するため、多分野と連携する必要がある。

#### ⑤ ここ滋賀

・滋賀へといざなう直接的な誘客機能を強化する必要がある。  
 ・商品改善や首都圏での販売促進を行うため、県内事業者や業界団体との連携を強化する必要がある。

**【キーワード】** コロナからの回復、安全安心な観光、観光事業者間の連携、旅行ニーズの多様化への対応、旅行者を惹きつける体験交流型コンテンツの創出、SDGs(サステナブルツーリズム)、デジタル化(DX)、

基本方針



◇多様な主体の連携を促進し、県内の観光資源をつなぎ、地域が一体となって面的に新たな観光の推進・創出することが必要

**“シガリズム”を共通コンセプトとして滋賀ならではのツーリズムを推進**

戦略

① コロナからの回復

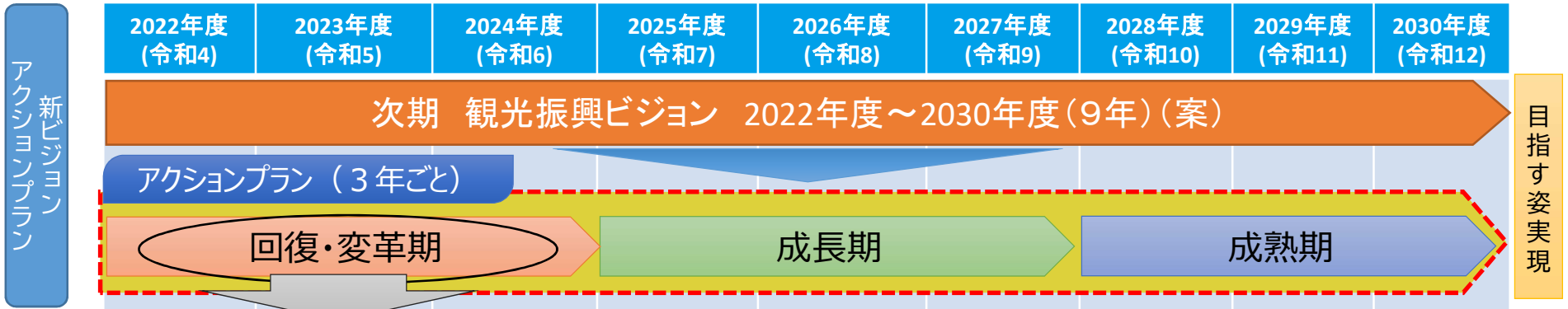
② 魅力向上・創出

③ 受入環境整備

④ 魅力発信

⑤ 推進体制強化

# 滋賀ならではのツーリズム“シガリズム”の推進②



回復フェーズ

R 4～6年度を「**回復・変革期**」(新ビジョン当初3年)として新型コロナウイルス感染症からの**回復フェーズを3段階**に分け、各段階に応じた観光需要の回復に関する対策や、シガリズムを中心とする新たな観光に関する事業を推進する。  
【現時点の回復フェーズ想定】  
①R 4年度『**感染拡大防止、県内・近隣回復期**』, ②R 5年度『**国内旅行回復期**』, ③R 6年度『**インバウンド回復期**』

回復・変革期【想定】		
令和4年度(2022年)	令和5年度(2023年)	令和6年度(2024年)
感染拡大防止、県内・近隣回復期	国内旅行回復期	インバウンド回復期
基本方針：“シガリズム”をコンセプトする滋賀ならではのツーリズムを推進・定着		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドマスターズゲームズ</li> <li>・全国植樹祭</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・彦根城世界遺産登録</li> <li>・北陸新幹線 敦賀駅開業</li> </ul>
・入国制限 一部解除	・入国制限 緩和	・入国制限 解除
・GoToトラベル一部再開+今こそ滋賀	・GoToトラベル全面再開	・需要喚起の縮小
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止対策</li> <li>・事業者支援、観光需要の喚起</li> <li>・シガリズム推進・創出</li> <li>・旅行の平準化、新しい旅行スタイルの普及(ワーケーション推進等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当面の観光メインとなる日本人国内旅行の誘客</li> <li>・訪日外国人旅行の環境整備、プロモーションの強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本格的なインバウンド回復時の訪日外国人の誘客</li> </ul>

目標：令和元年(2019)ベースまで回復